



平成 28 年 2 月 18 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ヒ ュ ー マ ン ウ ェ ブ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 吉 田 秀 則
(コード番号：3224 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 戦 略 本 部 本 部 長 安 部 浩 司
(TEL. 03-6667-6606)

国立大学法人東京大学との「緑藻（デュナリエラ）等、微細藻類の大量培養」 業務委託契約締結に関するお知らせ

当社は、本日、国立大学法人東京大学との間で、「緑藻（デュナリエラ）等、微細藻類の大量培養」に関する業務委託契約を締結いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業務委託契約締結の背景と目的

東京大学と当社は、これまでウィルスフリーである海洋深層水の取水量が日本一である沖縄県久米島の当社施設で、アタラナイ牡蠣の陸上養殖事業に必要な牡蠣成育の餌となる微細藻類の大量培養に関して共同研究を行ってまいりました（※）。この共同研究を通じて、当社は海洋深層水を用いた微細藻類の大量培養技術とノウハウを蓄積することができました。

東京大学 生物生産工学研究センター 倉橋みどり特任准教授は、海洋深層水を利用する微細藻類の培養を中心とした、エネルギーと資源の段階的利用による複合的産業の研究を進めております。当社は、当初よりこの構想に賛同しており、講座の一端を支えてまいりました。微細藻類には様々な種類がありますが、緑藻（デュナリエラ）は、①油脂②βカロチン（抗酸化物質であり、アンチエイジング、抗ガン作用等）③グリセリンなどの優れた成分を有しております。

次世代型養殖には、緑藻（デュナリエラ）が、魚介類の良質な餌となる可能性があること、またバイオマスエネルギーの生産には、緑藻（デュナリエラ）の油脂成分が有用であると考えられることから、東京大学では、緑藻（デュナリエラ）の大量培養の実証実験を開始することになりました。

そこで、微細藻類の大量培養技術、ノウハウ及び沖縄県久米島に施設を有する当社が、緑藻（デュナリエラ）等、微細藻類の大量培養の実証実験を受託することになりました。

※ 微細藻類の培養には光合成と栄養素が必要で、ローコストでの大量培養にあたっては、日射量の多い亜熱帯地域であること及び豊富な海洋深層水の利用という2つの条件が有利に働きます。

2. 当社の事業における位置付け

当社では、アタラナイ牡蠣の実現に向けた陸上養殖事業を進捗させる中で、緑藻（デュナリエラ）の大量培養を行ってまいります。当社としての実施目的は次の2つです。

① 新しい牡蠣の飼料

緑藻（デュナリエラ）の成分が、牡蠣の成育に有用であることを検証すると同時に、緑藻（デュナリエラ）の成分で牡蠣が育つことにより、天然牡蠣には含まれていない栄養価を付加させることができるかを検証すること。

② バイオマスエネルギーの供給源

緑藻（デュナリエラ）は効率的に油脂を抽出できる可能性があり、バイオマスエネルギーの供給源としての研究が検討されていることから、今後、当社も緑藻（デュナリエラ）の大量培養に取り組むことで、バイオマスエネルギー供給源のひとつとなってゆき、二酸化炭素の削減など、地球環境への貢献に参画する新規事業としてゆくこと。

3. 受託期間

平成 28 年 2 月 18 日～平成 28 年 3 月 31 日（平成 28 年 4 月 1 日以降継続予定）

4. 今後の見通し

本受託業務の実施に伴う収入が平成 28 年 3 月期に与える影響は軽微ですが、将来的には一定の成果が見込まれるものと考えております。今後の取り組みの状況により、平成 29 年 3 月期以降の業績に与える影響が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

以 上